

「認定NPO法人つどい」とは

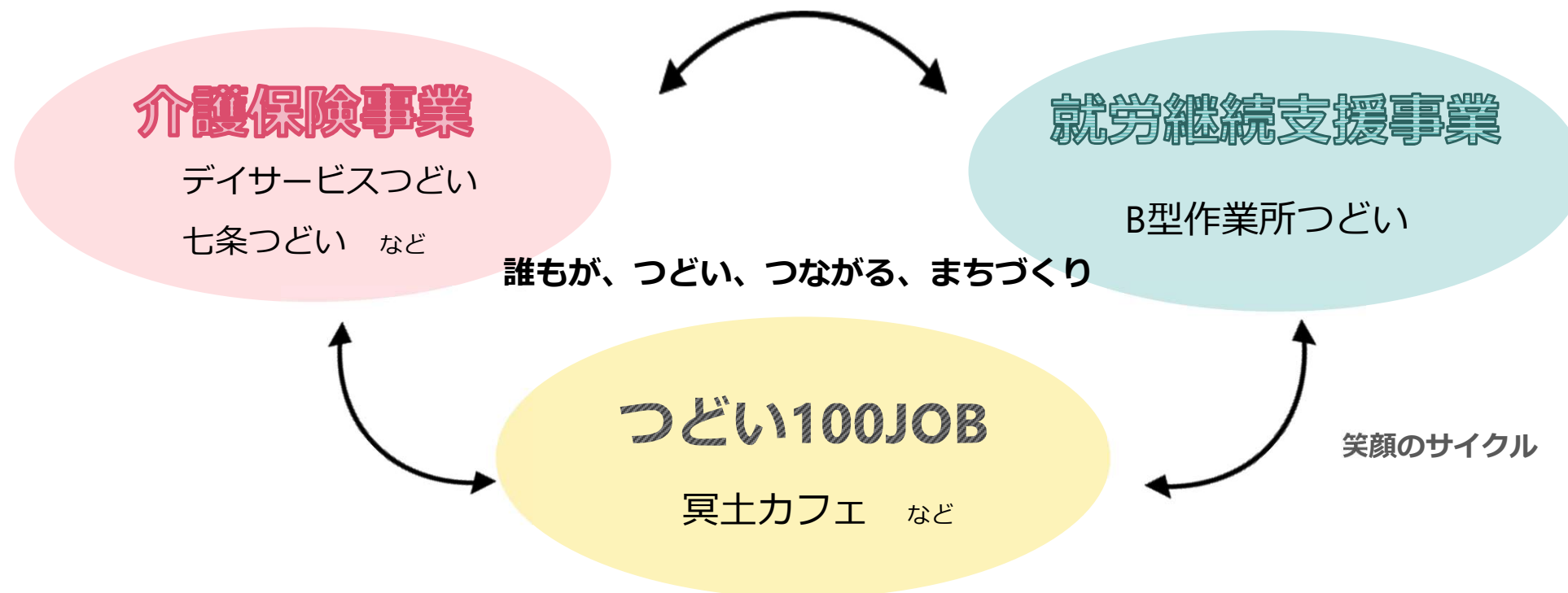
近畿農政局、滋賀県の職員の方と伺いました！

年齢や障害に関係なく、住み慣れた地域で生きていけるように

介護保険事業や就労継続支援事業を通じて、

生きづらさを感じる人の居場所づくりや

地域みんなが自分らしくイキイキ・笑顔に暮らせる環境づくりを行っている団体です。



「デイサービスつどい、七条つどい」概要

- ・ 要支援～要介護3の方々が利用。今以上に状態が悪くならないような取り組みを行っている。
 - ・ B型作業所で収穫した作物の調理、パンフレットの袋入れ、蓮の花びらの仕分け作業、体操、カラオケ、掃除など、活動内容はたくさん。
 - ・ 利用者の「興味があること」「挑戦したいこと」「できること」に着目し、役割や楽しみを持つことを大切にしている。
 - ・ 役割を持って活動する居場所づくり⇒利用者のやる気につながっている。
 - ・ 利用者の最高齢は100才！
※写真右下の方です。山椒の下処理をしています。
- ★ 手作業は昔を思い出すようで、利用者の方々は楽しそうに作業されていました。



「B型作業所つどい」概要

- ・ 障がい者、ひきこもりの方々が60代～80代のスタッフとしいたけハウスや農園で作業している。
 - ・ 適材適所で人員を配置。
温度や湿度を管理する仕事、間引きをする仕事、出荷用のシールを貼る仕事、原木を陳列する仕事など、利用者とスタッフで分担している。
 - ・ 数十年、引きこもりだった方が現在はリーダーとして周りを引っ張っている。
 - ・ お互いに支えあい、助け合いの力を養う。
 - ・ 楽しく作業をすることがモチベーションアップになる。
- ★ しいたけの一日あたりの収穫量はなんと35～40kg！
365日を通して管理が必要で、休めないと嘆きながらも、自分の仕事に誇りを持たれていました。



「つどい100JOB」概要

- 「100個の仕事があったら100人の働きづらさを抱えた人の居場所ができる」という思いのもと、生きづらさや働きづらさを抱えた人が新たな生きがいを発見できるよう、居場所を創出している。
- 定年後もう少し外で仕事がしたい方々、仕事が続かず引きこもっている方々が参加している。

～事業例～

- 農福連携事業を活用し、約2.5haの耕作放棄地の棚田で花蓮を栽培。高齢者や障がい者が畑作業や花の収穫を行っている。
- 蓮の時期には「冥土カフェ」が大盛況。
つどい 100JOB参加者のうち60代～70代の女性が、農園で採れた野菜や蓮を使った料理を提供している。
“メイド”と“冥土”をかけているのだそう。
- 地域の閉業したお煎餅屋さんを継承している。
- ★ 参加者の一人は、しいたけハウスでも活躍されていて、「孫の自慢になることを目標に活動している」とのことでした。



理事長、川村さんの熱い思い

生まれ育った長浜市西黒田を100年後も安心して過ごせるまちにしたい

ここでしかできないことがまだまだたくさんある。地域にあるものを、そこにいる人たちで続けていくことが大事。地域の人が気持ちよく巻き込まれながら支えあい、活動を行うことがまちづくりにつながっている。

「ここに蓮畑を作るのがよい」という吉夢をみて、実現されたそうです!!



蓮の花ジャム



蓮の花サイダー

訪問を終えて

- 認定NPO法人つどいでは、様々な事業を行っています。施設は離れていても、そこにいるすべての人がつながり、支えあいながら仕事をされていました。
- 高齢者も障がい者も、ひきこもりの人も、スタッフも対等に話ができる関係性でした。
- 利用者みなさんは生き生きとされており、自分の仕事に誇りを持っていました。役割があることは、やる気や生きがいにつながると感じました。
- 地域にあるものを、そこにいる人たちでつないでいくという思いで、精力的に活動されている様子に感激しました。



みんなで集合写真



すべてこの土地で取れた食材
←魚ではなく、蓮の花寿司！
美味しくいただきました。

